

令和元年度第2回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会議事録

1 日時

令和元年10月3日(木) 10:00~12:00

2 場所

岩手県民会館 4階 第4会議室

3 出席委員(敬称略)

委員長 岡田 秀二
委員 北舘 充史
委員 工藤 昌代
委員 郷右近 勤
委員 福士 信幸
委員 吉野 英岐

4 議事

【1 開会】

- ・事務局が開会を宣言。

【2 挨拶】

〔岩手県農林水産部技監〕本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

さて、出来秋を迎え、稲刈りも最盛期の時期になっていますが、9月30日現在においては、県全体で39%の稲刈りが終了しております。平年よりやや早く推移しています。また、9月15日現在の作況はやや良となっており、収量も期待できるものと考えています。

本日は、地域の特色を活かし、地域の活性化に成果をあげている集落等を表彰する「いわて中山間賞」について、審議いただくこととしています。

これまで、委員の皆様には、北上市、一関市、二戸市の3団体について、現地調査をお願いしたところであり、調査結果も踏まえながら、ご審議いただきますよう、よろしく願いいたします。

限られた時間ではありますが、委員の皆様の忌憚ない御意見・御提言をお願い申し上げます。

- ・事務局が、委員9名のうち、過半数を超える6名の出席があることから、委員会
が成立することを報告。

(これ以降、設置要領第4の2の規定により、岡田委員長が議長となり進行。)

【3 協議】

(1) 令和元年度「いわて中山間賞」の選考について

- ・事務局が、資料No. 1に基づき、いわて中山間賞の概要を説明し、資料No. 2によ
り、二戸市「福田集落」の概要を説明。

《質疑等の内容》

〔岡田委員長〕この時の現地調査は委員全員で行ったのか。

〔事務局〕福士委員と北館委員の2名に出席いただいた。

〔福士委員〕確認だが、構成員というのは、人数か戸数か。また、協定参加者数と農業
者の人数の関係や非農業者の人数などで整合が取れていない部分があるようだ。

〔事務局〕整理して、後日、回答いたします。(10/25に委員へ回答済)

〔福士委員〕現地調査で集落に伺った際に、集落の代表者も、元は農業を行っていたが、
今は行っていないという話だった。そのような方が増えてきて、また、高齢化も進ん
だタイミングで、中山間地域等直接支払制度に取組み始め、上手く来ている集落。た
だ、正直、20年前のタイミングで基盤整備や区画整理に取組みたかったという本音
も話していたところ。

〔岡田委員長〕水利組合の構成員は何名か。協定集落の戸数と安比川水利組合の戸数、
また、お祭りと関係する集落全体の戸数などが整理されていない。

〔事務局〕整理して、後日、回答いたします。(10/25に委員へ回答済)

〔岡田委員長〕最も特徴的と言っている部分で、既存の水利組合に営農部門を設立し、
今後法人化して地域の農業の核としようとしていることだということであれば、水利組
合との関係も明確にしておかないといけない。例えば、集落の枠を超えてこのような
範囲で活動する計画だとか、集落内のメンバーと同様のメンバーで活動とか。

〔事務局〕整理して、後日、回答いたします。(10/25に委員へ回答済)

〔岡田委員長〕 お祭りとかも含め、集落全体の持続性に集落協定がどのように関係しているか整理することが、農業生産を持続していくことが集落全体の持続に繋がるということが県や周辺集落にとって重要だと思う

〔事務局〕 そのとおりだと思う。集落のお祭りなどの活動についても、農業者の方が主体に関わっているというようなことでないといけないと思う。指摘いただいた戸数や人数の関係を整理した上で、お祭りも農業者の方が関わっていると明確に整理する。

〔岡田委員長〕 それにしても、提案内容は、岩手県の優良な事例であるため、賞をあげたいということですが、いかがでしょうか。

〔福士委員〕 現地調査で質問した際に、中山間地域等直接支払制度に取り組んでいることで、農業を持続していく上では、非常によい、皆のまとまりができていているという話だった。ただ、他の中山間地域に比べ、元々いい立地条件なので取り組みやすいと思う。

お祭りは、二戸市にも虫追いまつりなど似たお祭りがいくつかあるが、あまり知られていない。人形は麦わらで、厄払いの煎餅が以前は御餅だったなど面白い風習だと感じた。視察で行った神社は、人もいなく、寂れた感じがしたが、地元の人たちが管理しており、お祭りも農業者の方も関わり合いながら、今後も続けていきたいという話だったので、そういった意味では評価していいかなと感じた。

〔北舘委員〕 特に、5ページ目の南部美人との契約といった部分も今後も取り組んでいくとのことで、今後の農業生産の核になりそうだと感じた。ただ、川沿いなので、水害があるため、水害対策にも取り組んでいかなければならないと思うので、そこが大変だと思う。

〔吉野委員〕 畑の面積が多いが、何を作付けしているのか。

〔事務局〕 葉たばこや野菜。

〔吉野委員〕 その内半分くらいは葉たばこというイメージか。

〔事務局〕 確認するが、そのようなイメージだと思う。あとは露地きゅうりなども多いと聞いている。

〔吉野委員〕 他の2地区に比べ、圧倒的に畑の面積も多いため、水稲のみに力を入れているという訳ではないと推測するがどうか。

〔事務局〕 県北にしては、川沿いの条件がいい部分で水稲。それ以外の条件が悪いところでは畑となっているものと思う。

〔吉野委員〕 これまでは、葉たばこメインで取組んできたということか。

〔事務局〕 葉たばこは県北地域の有力な換金作物であり、今後面積は減らしていかなければならないかもしれないが、主要な品目である。

〔吉野委員〕 福田集落というのは、自治会のような単位という理解でよいか。

〔事務局〕 そのようなイメージ。公民館活動の範囲となっている。

〔吉野委員〕 今回の福田集落は、中山間地域等直接支払制度の集落協定としてではなく、自治会のような住民組織としての受賞ということであれば、2ページ目の組織体制図に協定を記載し、集落全体にどのような関わり合いがあるのか、農業生産や農業組織との相互関係を明確にすべき。

〔事務局〕 数字の確認とともに組織体制図についても整理する。(10/25に委員へ回答済)

- ・ 二戸市「福田集落」のいわて中山間賞の受賞を可とすることについて了承された。

(1) 令和元年度「いわて中山間賞」の選考について

- ・ 事務局が、資料 No. 3 により、一関市「大原集落協定山口地区」の概要を説明。

《質疑等の内容》

〔工藤委員〕 現地調査の感想となるが、産直施設については、地元の住民に愛されていると感じた。住民の方が産直に出品した後、コミュニケーションを取りながら、食事処で昼食を取っているとのことでしたし、千葉委員は別の機会で一関市を訪れた際に産直山ちゃんに是非行った方がいいと紹介されたとのことで、山口地区のみでなく、一関市全体で注目されていると感じた。

加工施設についても、餅文化のある地域だが、販売用の加工よりも、地域の行事などでお振舞いする餅を加工するなど、地域行事にも活用されている。

〔郷右近委員〕 山口地区は、構成員のほとんどが第2種兼業農家ということで、このような集落は県内でも少なくないと思う。他の集落では、少ないながらも若い担い手がいいて、その人に負担が集中するという話をよく聞くが、山口地区はオペレーターが

50代で会社を休んで稲刈りをするといい形で、それで集落の営農がうまくいっているということでユニークに感じた。ただ、兼業農家であるので、米に頼らざるを得ないということも感じた。

〔吉野委員〕30haは面積的に少ないと思うがどうか。

〔事務局〕基盤整備を実施しているが、集落的には少ない。

〔吉野委員〕専門のオペレーターを1人雇うといった場合に30haでは給料を払えないので、お話があったとおり、兼業のオペレーターで精一杯だと思う。仮に専門のオペレーターを雇う場合は、集落外の農地も請負う必要があると思うが、そのようなことは行っていないか。

〔事務局〕集落営農的に取組んでおり、外部の農地を請負うことはしていない。農地保全的な意味合いが強い。

〔事務局〕この地区は畜産農家も多い地区なので、畜産農家も連携して取り組んでいると思われる。飼料用米にも取り組んでいるので、連携してオペレーターを回しているのではないかと推測される。

〔吉野委員〕農業で稼ごうという集落ではなく、なんとか地域農業を守ろうという集落なのですね。

〔事務局〕県南地域は中山間地域と言っても、ほとんどが第2種兼業農家。なので、お話頂いたとおり、米に頼ることになる。山口地区も兼業農家の人たちを上手く回して農地を守っている地域だと思う。

〔事務局〕大東町内にフリーデンという養豚をしている会社があり、資料の3ページの飼料作物はフリーデンへ出荷する飼料用米とのこと。

〔富士委員〕身の丈に合った経営と言いますか、儲けようという気持ちは元々なく、産直山ちゃんもお母さんたちが集まって楽しみながら、続けていこうという雰囲気。憩いの場の創出の意味合いが強い印象。産直施設も立派なものではなく、お金をかけずに細々黒字を出していく感じ。区画整理も終わり、産直もあり、東屋や加工場もある。加工場で餅を作っているようだが、地域の行事の際に受注生産のような形なので、無駄がない。

〔北館委員〕 飼料用米の生産は全体の7割とあるが、これは減っているのか増えているのか。飼料用米を地元の養豚業者に出荷して、たい肥等をまた田んぼにまくといった循環があると思うが、今後の見通しはどうか。

〔事務局〕 フリーデンとの相対契約で一定量を維持しているような状況。

〔岡田委員長〕 フリーデンではどこまで商品化しているのか。

〔事務局〕 「やまと豚」等の商品名で、米を食べさせていることを売りにしている商品も出している。

〔福士委員〕 産直山ちゃんでも、カツ定食やカツカレーで提供しているとのこと。

〔岡田委員長〕 産直山ちゃんの販売額や利用者数も年々減少傾向だが、そこに歯止めをかけられれば、集落も行政としても元気が出る。

〔事務局〕 今後は加工品に力を入れていきたいということで、視察研修も行っている。

〔岡田委員長〕 まずは第2種兼業農家でもいいので、人がいることが大事。そこから、発展までは行かないにせよ、維持していく体制の構築が重要になってくる。

〔事務局〕 県南は市町村職員や県職員等も多いので、退職した後は、地域の事務を引き受ける等の動きも必要だと思う。

- ・ 一関市「大原集落協定山口地区」のいわて中山間賞の受賞を可とすることについて了承された。

(1) 令和元年度「いわて中山間賞」の選考について

- ・ 事務局が、資料 No. 4 により、花巻市「あすの黒岩を築く会」の概要を説明。

《質疑等の内容》

〔吉野委員〕 黒岩は「地区」であり、集落としては5集落あり、その総称として「黒岩地区」としているのか。

〔事務局〕 その通り。

〔吉野委員〕資料の3ページ目に記載されている5集落がそれぞれ中山間地域等直接支払制度の協定の単位になっているということで、代表や会計等もそれぞれ別々ということか。

〔事務局〕その通り。

〔吉野委員〕農地・水・環境保全活動組織委員会は、多面的機能支払制度の委員会で1つか。

〔事務局〕平場も含めて、黒岩地区で1つ。

〔吉野委員〕あすの黒岩を築く会の会員20名は特定の集落が中心となって構成されているのか、5つ集落からそれぞれ会員がいて、どこの集落が入っていないということはないか。

〔事務局〕5つ集落からそれぞれ会員がいて、集落とあすの黒岩を築く会がそれぞれ連携して活動を行っている。

〔吉野委員〕産直や夢工房は、5つの協定とは直接関係がなく、黒岩地区で1つというイメージか。

〔事務局〕その通り。

〔吉野委員〕黒岩地区で1つの組織や施設があるが、あえて5つの集落協定で取組んでいる理由はあるか。

〔事務局〕確かに、ここまでまとまりがあれば、合併してもいいと感じるところ。

〔吉野委員〕その通り、第3期対策期か第4期対策期で広域化していてもおかしくないと感じたところだが、それぞれの組織が残っている理由があれば、教えてほしい。

〔事務局〕広域化に伴う会計の一本化や事務局の確保はハードルが高いと聞いていた。

〔吉野委員〕1つ前の大東の形とは全く逆で、大きく範囲を取って、協定を作り、その内の集落毎に活動を行うのに対し、黒岩では、各集落で協定を作り、個々で活動しているが、黒岩地区全体の取組に対し、賞を上げたいということか。なおかつ、今回は

NPO 法人ということで、先ほど話のあった地域内の互助交通など生活サービスのよう
な取組を行っているような団体に対して、農林水産部として賞を上げたいというこ
か。

〔事務局〕国も段々に集落機能の強化ということで生活支援といった部分についても農
林水産省で支援していこうという流れもあり、そういった取組のモデルになる地区だ
と考えている。

〔吉野委員〕なるほど。ただ、国土交通省の流れではないので、基盤にはやはり農業生
産の部分があるといったことが重要だと思う。その部分については、確認済というこ
とでよろしいか。

〔事務局〕はい。公民館活動の中でも、農道や水路の草刈り作業は非農家も含めて当
り前のように実施しているとのこと。また、里山についても整備しており、間伐材を
薪にして活用するなど、1次産業の部分においてもモデルになる取組だと考えている。

〔工藤委員〕現地調査の際に、外部からの移住者もいるが、そういった人へも草刈機を
貸し出すなどしていくことで、やるのが当たり前といった環境になると話があり、
印象的には皆で環境を整える体制がしっかりできていると感じた。

〔岡田委員長〕農業を基盤に全体が束ねられる地域構造を持っている昔ながらの農村が
維持されているのですね。

〔吉野委員〕広域で活動する営農組織はないか。

〔事務局〕ない。

〔吉野委員〕金山営農組合は大豆なので、転作組合が発展した任意組織かと思うので、
農業で一本化しようというところは目指していないか。

〔事務局〕公民館活動を中心に活動が継続されているため、まだ問題意識がないものと
思われる。

〔吉野委員〕まだそれぞれで活動ができており、限界にきている集落がないということ
や、一方で、1 ha とか小さい範囲で細々と続けていければいいという思いなどもあ
て気運が生まれえないのか。

〔事務局〕 まだ、一本化といったところまで、気運が生まれていない状況。

〔岡田委員長〕 全国的にも、農業が土地に基盤があるが故に広域化しにくい部分がある反面、生活支援といった部分については、集落の範囲を超えやすい。黒岩は近くに工業団地もあり、農地を手放さないような思いもあると思う。

〔事務局〕 そう思う。収入減はあると思うので、兼業農家として細々とやる意向が強いと思う。

〔吉野委員〕 ただし、生活支援については、互助組織を作っていく必要があるという意向はあるということですね。

〔事務局〕 このような兼業農家が主体の集落と県北のように農業で生計を立てていこうという集落は分けて考えていかなければならないと思う。

〔福士委員〕 そういった意味合いでは、この地域は恵まれている。近くに働く場所があり、農業も行っていける。互助交通についても、黒岩までは市の循環バスが来るが、山間部には来ないので、地区内は互助交通でバス停まで送ろうという動きであり、その他にも、広場には、高齢者のための休憩所や託児所、産直や公民館、伝統文化の継承施設もある。地区の繋がりが強く、設備や土地を購入する際の寄付も住民から苦情などはなかったとのこと。

〔工藤委員〕 農協の時からある倉庫に入った機械は現在使っておらず、現在はドローンを活用した農薬散布も行うなど、新技術も活用しているとのこと。

〔福士委員〕 ふるさと納税の返礼品で、都会の人たちに選ばれるよう無洗米にしたり、名称やラベルなども地域の子どもたちに考えてもらったりするなど、工夫している。

〔工藤委員〕 返礼品の「黒岩豚太くん」は実際に食べたが、とても美味しかった。リピーターがいることも納得できた。

〔福士委員〕 やまと豚と同じように米を食べているとのこと。養豚場と集落の間で一度もめたそうだが、話し合いで中を持ち、米と豚肉を供給し合う形になったとのこと。

- ・花巻市「あすの黒岩を築く会」のいわて中山間賞の受賞を可とすることについて了承された。

【4 その他】

〔福士委員〕現地調査を行う前に、事前に候補調書を見てから伺いたいので、事前を送付願う。

〔事務局〕今後は事前を送付するようにする。

〔岩手県農林水産部技監〕

本日は、活発なご議論をいただき、大変ありがとうございました。

平成 27 年度から開始されました第 4 期対策となる中山間地域等直接支払制度については、今年度末をもって、終了し、次年度からは、新たに第 5 期が開始される予定となっています。

第 4 期対策を計画的かつ効果的に実施していくため設置しました本中山間地域等直接支払制度推進委員会においても、これまで、委員の皆様、それぞれ専門の見地から様々な御意見、御助言をいただき、ありがとうございました。

本県においては、頂いたご意見を踏まえながら、制度のより効果的な活用が図られるよう取り組んできたところであります。

本日の委員会が、第 4 期対策に係る委員会としては、最後となります。これまでの委員の皆様方の御協力に厚く御礼申し上げ、簡単ではございますが、謝辞とさせていただきます。

今後においては、委員皆様、それぞれのお立場から、本県の中山間地域の活性化に向け、引き続き、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

本日は、本当にありがとうございました。

【5 閉会】

- ・ 事務局が閉会を宣言。